

私の小さな音楽史

—モーリタニア国歌に癒された日々—

佐々木晃彦

1. はじめに—ラジオ深夜便(注1)—

ラジオ放送開始は1925年ですから、日本で放送が始まって100年になります。私は、ほぼ毎日、18時就寝で2時起床です。一日のスタートを午前2時にしたのは、4時までの2時間、ラジオから音楽が流れるからです。内容は、歌あり、演奏ありで、それを時代やジャンル、女性アーティストや男性アーティスト、国別、地域性の違いなどで整理・構成されています。

ラジオ深夜便では、音楽が流れる前に必ず、西暦(明治、大正、昭和、平成)何年に誰によって作詞され、或いは作曲・編曲されたかが紹介されます。もっとも、時々、「MCのお喋りが多すぎて、その時間は音楽を流す時間に使って欲しい」と思うこともあります。まあ、それは歌想いの我儘な願いであり、番組制作サイドが決めることなので致し方ないと納得致しております。

このように、一日の実行動と向き合う前の2時間は、音楽が創る時代(注2)に埋もれて、5歳に戻り、10歳に戻り・・・、今日に至るまでを振り返る一時です。楽しかったこと、辛かったこと、多くの方から言葉を掛けて戴き、現在に辿り着いていることを思う不思議な世界になります。「この路線(業界、仕事内容)で最後まで行こう」と決めて乗車(就職)しながら、途中下車して別の電車に乗り換える(転職すること)7回。引越し貧乏と揶揄されながら住まいを30数回変え、新しい業界、新しい地域の方々との人間関係を一から、つくり、学ぶ。それは、言わば、不義理の繰り返しであり、「取り返しのつかないことをしたなあ」と詫げる時間でもあります。(いま、ここ、を大事にするしかない・・・)。最終下車駅は北九州市の折尾駅です。大学が準備した構内の一軒家に20年住みました。夜の大学構内は静かでしたねえ。他の先生方は普通に、電車や車通勤をしていました。

この転居・転職癖に途中から家族は一人もついて来ず、「家にはお父さんがいないものと思っていた」と言われてドッキリ。20年も離れれば避けがたいことかもしれません。北九州の折尾に単身赴任中、玄界灘が見える料理屋で子供たちを“ご接待”させて戴きました。料理屋が送迎車を出して下さり、美味しい魚からデザートまでのフルコースで歓待、私は座持ちです。

2. 学校の劇場化—小さな文化体験—

小学生になり文字が読めるようになって、ランドセルを背負って自宅にまっしぐら。新聞でラジオ番組のチェックです。

歌番組を中心に一日のスケジュールを決めました。ザ・ピーナッツのファーモニーが好きでした。事務所にいる二人のお姉さんが、ファン対応をしていました。数年間一ファンとして交信を続けた頃、後援会を設立する旨の連絡があり、直ぐに入会しました。



『会報第1号』（非売品、ザ・ピーナッツ後援会本部、発行：昭和35年6月30日）に自分の名前を見つけ、子供心を興奮させました。後援会事務局から写真を送って貰い、毎日眺めていました。子供のお宝時間です。

歌番組同様に、年数場所の相撲ラジオ放送は、アナウサー絶叫の煽りで子供心を刺激しました。場所中はラジオに囁り付いていました。お相撲さんの絵をせっせと描いていました。かような時代に映画「若ノ花物語（製作：1956、原作：菊島隆三、監督：森永健次郎、音楽：古賀政男¹1904～1978）が製作・上映（注3）されました。映画と音楽の関係など、全く分かっていない時代です。当時小学3年生の私は、その映画を観たくて堪りません。そこで親が学校の用務員さんに頼み込み、その方が連れて行って下さいました。一番近い映画館まで往復15キロ。映画を観終えた帰り、辺りは暗闇になっていました。硬雪で被われた山道を月が照らしています。美しい自然のなか、ひたすら歩きました。今も当時の景色が心に、硬雪の感触が足裏に残っています。用務員さんに感謝致しております。

後々になって分かるのですが、複合文化施設、多目的ホールなどの名称で多様な使い方をするスペースの必要性・有効性が取りざたされ始めた頃でした。戦後の、あたふたとした混乱に陥っている、満足な食事にもあり付けない時代です。「生活文化」「生活の芸術化」など、J・ラスキンやW・モリスの言葉が伴う海外動向を先学から吸収し、行政機関、各企業ほか、関連する業界がホールづくりの具現化に向け、取り組み始める時です。

しかし、故郷僻地の小さな学校は、その機能を果たしてしていました。併設されていた体育館が、村人全員が集まる文化施設として使われていました。学童が美術作家、演奏家、俳優になり、体育館は美術館、コンサートホール、劇場に、映写機を持った技師が来て数ヶ月に一度は映画館に・・・と、多目的ホールの働きをしていたと思います。

時代劇「鞍馬天狗」（公開：1951、原作：大佛次郎、監督：大曾根辰夫、音楽：鈴木静一¹1901～1980）では、劣勢にあった善人へと風向きが変わり、悪人相手に攻勢に転じるに

相応しい音楽がボリュームアップされて流れます。すると、馬に乗った嵐寛寿郎が颯爽と登場、板敷きの体育館に座る村人から大拍手が起きるのでした。ストレス発散の瞬間です。私は小学生になっても母の膝に抱っこされていました。

秋の収穫時には各家庭が手塩にかけて育てた農産物を出品し、体育館は品評会を行う一大市場となりました。「俺の大根が一番だべー(でしょう)」。野菜作りに励む農家の皆さんの熱気は、喧嘩でも始まりそうなエネルギーで凄かったです。田舎ですから食料自給率は80%を超えており、毎日、国民一人当たり、おにぎり一個分が捨てられているという、今日的課題の食品ロスもありません。国別対抗のオリンピックを凌駕するような地区別運動会では、グラウンドで大人と子供が一緒になり、走り、飛び、投げ・・・一体感のもつ大応援には歌声が響きました。ほぼ自給自足の生活にありながらも、故郷は平穏であり、音楽は身近な存在でした。

誰しも自分の故郷があり、そこは静謐であって欲しいと願います。東京都心から1000キロ南下すると父島、そこから50キロ南に母島があります。父島、母島には1週間ほど滞在したことがあり、自然環境や町の様子が少しは分かります。そして母島から200キロ南、都心から1250キロ離れた所に火山島の琉黄島があります。そこには今なお米軍のB29爆撃機の残骸が残っているんだとか。80年前になりますが島民の大半に強制疎開が命じられ、僅かな荷物で島を退去(琉黄島は1968年にアメリカから返還)させられた歴史があります。

敵わない願いである“再定住”が認められていない島民のお話しです。「1930年頃の琉黄島には1000人以上が暮らし、運動会や祭り時は活気に溢れていました。マンゴーやパイナップルが実る温暖な気候で、各家が牛や豚を飼い、祝いの席では鱈(サワラ)の寿司が振る舞われました。島を危険な無人島と思っている人がいますが、火山と共存した豊かな暮らしがありました」。海辺と山奥という自然環境の違いこそあれ、静穏な空気が漂うなかでの生へのエネルギー。故郷と相重なるものを感じます。

そして“驚愕の一言”を付け加えたいのです。琉黄島で2025年3月29日、日米両国合同の戦没者慰霊式がありました。その式に出席した米高官が、翌30日に、在日米軍の権限を強化・再編する方針を明言。中国の脅威を念頭に、こう語ったのです。「平和のためには戦争の準備をする必要がある」。震駭させる言葉ではありませんか。識者は「教育軽視と頭脳流出に伴う大国瓦解の道程(注4)」と語ります。日本は同盟国としてシッカリした理念の下、対応することを願うばかりです。

3. 初めて聴いた中東の音楽—モーリタニアの国歌—

拡大中東地で初めて接した音楽は1971年で、サハラ砂漠最西端の国、モーリタニアの国歌です。同国にテレビ放送はなく、いつもラジオを聞き流していました。スーツケース一個で出掛けており、最小限の日用品で単調な生活を送っています。小さなラジオから流れてくる国歌、そして、様々な中東の音楽、私は間違いなく癒されておりました。

音楽は「音を材料」に組み立てる時間芸術です。作品によっては、歌詞としての文芸作品と総合される歌謡や声楽、劇と総合されるオペラがあります。舞踏、劇、それに前述の「鞍馬天狗」を思い出して下さい、映画の伴奏として用いられる場合もあります。映画の

内容は忘れられても、永く親しまれている映画音楽があります。

時間の経過に伴って秩序ある変化を行い、次の音が来ては直ぐ消える運命にある音、音は、“いま、ここ”だけの命。可哀そうな存在です。(後述しますが、演奏では間違った音を出しても次々と音を出さなければなりません。例えば演奏中に失敗しても、「シマッタ！」などと頭を抱えてはイケマセン。ここは消えて行く音に、心してアリガトウ！)。

中国には古代から〈音によって人心を楽しませる〉という意味から、「音楽」の言葉がありました。雅楽、舞楽などが日本に入り、神楽、猿楽、田楽などが生まれました。現代日本の「音楽」は、明治初年に文部省が学校の教科目に「音楽」を取り入れる時に「ミュージック」を「音楽」と訳した時に始まります。音楽のプッチ歴史になってしまいました。拡大中東地に舞台を戻します。

正式にモーリタニアの国歌として採用されたのは1960年で、採用終了の2017年11月16日まで使われました。歌詞は18世紀の詩人Baba Ould Cheikhの作品から採り、曲はTolia Nikiprowetzkyによって作られました。1960年の独立と同時に国歌と定められたこの曲ですが、リズムが複雑で、歌うのはモーリタニアの人にも至難の業。実際、殆どの場合、メロディーだけが使われており、歌われることはありませんでした。滞在中は毎日、国歌を聴くよう努めましたが、覚えるには至りませんでした。このサハラの体験が尾を引いて、私には「中東の音楽は難しい」との印象が植え付けられました。

2017年12月16日に作者不明、作曲者Rageh Dauldによる新しいモーリタニア国歌が採用されました。これは素人の私にも聞きやすい曲です。以下は歌詞の一番です。

誇り高き国よ高貴なる正義の国よ
束縛なき聖典の啓よ
おおモーリタニア調和の泉よ
力強き地よ平和の啓よ
Chorus
我らは人生を捧げ汝を守らん
我らは汝の丘に希望をもたらす
我らは汝の呼びかけに常に応える

実は、新しい国歌が採用された時、私が慣れ親しんでいた国を象徴する国旗も変わりました(注5)。さて、中東地域の音楽は、日本、中国、東南アジア、インドの音楽と共に、東洋文化民族の音楽を代表し、西アジア、中央アジア、アフリカ北岸に広がるイスラム音楽圏内の本源です。このアラビア音楽、広義にはイスラム音楽と同義で、狭義にはトルコやペルシアなどの音楽と区別したアラビア半島の音楽です。つまり、サウジアラビア、イラク、シリア、ヨルダン、レバノン、イスラエル諸国のアラビア人の音楽になります。

楽器の在り方はインドに近く、ウード、ラーバブ、ナッカーラを中心とした楽器編成です。また、これらの楽器は中世ヨーロッパ音楽に影響を与えており、ルネッサンス以降の器楽の発達や世俗音楽の発生に寄与した(注6)ことも認められています。

共鳴用に蛇の皮を張った火不思(ほぶす)と胡琴(こきん)が、明の時代以降に三弦および胡弓に発達しました。そして中国三弦が日本の三味線になったことを思うと、中東地域のアラビア音楽の影響が日本に及んでいることになります。ここで心配なことがあります。

東京芸術大学音楽学部に邦楽科が設置されていますが、その規模が貧弱との評価が定着しています。小中学校の教科目の一つである「音楽」から邦楽は除外され、百貨店に和楽器売場がなくなっています。邦楽は現代日本人に無縁となり、海外に進出して注目される機会の方が多い(注7)というのです。そういえば、私自身も伝統音楽として思い浮かべるのは、勉強不足を露呈してしまいましたが、「春の海」と「六段の調べ」の二曲だけです。一般向け楽曲の欠如は何処に原因があるのでしょうか。

創業135年の歴史をもつ最大手三味線メーカー「東京和楽器」(東京・八王子市)が2020年8月に廃業しました。三味線の需要がなかった、もとを辿れば家元制度が門下生の自由な活動を妨げて来た、息苦しくさせている・・・と耳にしますが、仲間社会が負のスパイラルから閉鎖的になり、異なる価値観を持つ人が疎んじられているとしたら残念なことです。“よそ者”のいない組織から、現状を打破する良い考えは生まれにくいからです。伝統音楽を守りつつ現代音楽とコラボする、五代目常磐津文字兵衛に期待致しております。

アラビア音楽は、日常生活、儀式、娯楽の重要な部分として機能してきました。あまつさえ、西洋音楽より先に発展していますから、西洋クラシック音楽はアラビア音楽の恩恵を受けて育ってきたと言えるでしょう。バロック時代のカノン形式、そして西洋クラシック音楽の中心的様式であるソナタ形式もアラビア音楽から影響を受けております(注8)。

近・現代のアラビア音楽も、本道の伝統音楽派とイージー・リッスン派に分かれます。後者ですが、地中海を渡ればフランス、という地域性から多くのアーティストがフランスに渡っています。そして、消費される商品としての音楽素材にアラビア音楽の要素は、ふんだんに用いられています。

例えば、シャンソン界ですが、エンリコ・マシアス(1938)はアルジェリア生まれですから、曲のつくり方自体が100%「アラブ風」です。サビの部分で四分音を使ったり、リズムもアラビアっぽくしています。コーランの朗誦は魂を癒し、包み込む平和の瞬間とも言われますが、私はエンリコ・マシアスの唄うメロディーに祝福を引き寄せる美しいコーランの朗誦を重ねてしまいます。エンリコ・マシアスは大の日本好きで、コンサートに来ていた石井好子(1922～2010)を会場の皆さんに紹介していました。

ジョルジュ・ムスタキ(1934～2013)はギリシア系ユダヤ人の両親がエジプトに亡命中、エジプト・アレクサンドリアで生まれております。自らをアフリカ・アラブの文化が混在した「地中海人」を名乗っていました。地中海人には“無国籍”の意味があります。ジルベール・ベコ(1927～2001)が生まれたコートダジュールは、パリよりアフリカが近距離です。作品には中東の香りが漂います。ステージを度々見ましたが、一曲ごとに、いや、曲の進行中でも例の青いピアノを離れてタバコを一服します(そのたびに会場は忍び笑い)。あれって煙草依存症ですね。共通しているのは皆さんが日本最良であったことです。パリ・オランピア劇場などでのプッチ体験です。

4. 演奏体験—手風琴、クラリネット、トロンボーン—

今まで嗜んできた楽器を、振り返りたいと思います。小学2年生の時、ダイアトニック・アコーディオン(=手風琴)を買って貰いました(注9)。我が家から一番近い楽器店は山形県米沢市にありました。最寄り駅まで山道を1時間半ほど歩き、駅から車で約30分、そこからまた歩いて…。私が望んでというより、オルガンを買って適当な音を鳴らして楽しんでた父が、私を思っただけか否かは分かりませんが、買い与えたと言った方が的確だと思います。

1955年頃です。学校に、タンバリン、輪になった鈴、カスタネットのような、簡易楽器は幾つかありました。しかし、アコーディオン、縦笛などはありませんでした。覚えています。小学4年の時は担任が4回変わりました。4人目は村のお姉さんで、最後の5人目は教頭先生でした。先生の上手とは言えないオルガンに合わせて私たちが歌う、これが音楽の時間でした。困り果てている教頭先生の様子は、小学生の目にも可哀そうでした。

先生のいない学校、のどかな風景が浮かびますが、今は「私は義務教育を受けて来なかった。特に音楽は・・・」の想いが強くあります。

手風琴を与えられても、音符が読めない私に手ほどきをしてくれる人がいません。この手出しのない放任、いっこうに構いません。曲が弾けるまで自己流で、繰り返し練習しました。音楽に〈楽器いじり〉は大切です。〈楽器の正しい持ち方〉など気にせず、どのような音が出るのか、大きい音、小さい音・・・子供なりに徹底的に調べる〈楽器いじり〉です。朝日新聞社編『音楽：林光、私の教科書批判』では、教科書は何を教えているのか？と「教育」には無関係の評者が具体的に検討し、いわば素人の眼から実態を批判しています。その視座の確かさは、当時の教師・父兄への指針となった、そう願っております。

そして一、地域の人たちが集まる学芸会で演奏しました。場所は多目的ホール？の体育館。70年前の手風琴(写真下)が辛うじて手元に残っています。



私の意思とは関わりなく買い与えてくれる父でした。しかし、何事であっても父の許容時間を越えて熱中していると、猛然と怒り、直ぐ取り上げ、外に投げ捨てる気の短い人でした。スタートカメラ、電池で動く玩具、ゲーム、漫画本、将棋の駒、双六・・・5~6歳の頃は、真っ裸の私を真冬の雪中に放り投げました。あのDV状況を思うと、手風琴が残っているのが不思議です。当時は重かった楽器が、いま見ると玩具のよう。蛇腹には穴もなく、現在の私より健康体です。当時の懐かしい音がそのまま出ます。

中学校の音楽は、年数回、教育系大学の音楽科を卒業した先生が来校しました。大学で

よくある集中講義ですね。ただし、上級生との複式授業です。音楽室はありませから裁縫室にオルガンを運び、先生の演奏に合わせて歌ったことしか記憶にありません。当時、音楽の教科書を開くと、楽器を吹く際の背筋を“不自然に伸ばした”姿勢、腕の角度まで指示した、まるでロボットが楽器を持っているような説明付きの写真で示されております。音楽なのに「音」を「楽」しむ雰囲気伝わってきません。柔道や空手競技にあるような、型を重んじる音楽の内容に窮屈さを感じました。

音楽にあるのは勉強、すなわち嫌なことでも「強」いられ、「勉」(つとめ)ることでした。音楽や美術はイメージ脳である右脳を育み、それが左脳を刺激してバランスの取れた人格を形成すると言います。しかし、それは「音楽」である場合に限り、「音学」では難しいのではないのでしょうか。当時の指導要領に「音楽という教科は、基礎(楽典)、鑑賞、歌唱、器楽、創作などの分野でバランス良く、互いに有機的関連をもって行われることで成立する」と書かれています。この縛りは中学生には手に余る高いハードルで、教える先生にも覚悟が必要であったと思います。

このような牧歌的で何とも緩い義務教育を経て東北一の都会、仙台市の高校に入りましたから、想像して下さい。私は教室にいる約55名の生徒数に度肝を抜かれ・・・級友は「山形の僻地、分校から来た」と知って、クラス全員が歌い、励ましてくれました。勉強は全くできませんでしたが、成績には関わりなく相手になってくれる、誠実で思いやりのある学友に恵まれました。今も仲良くさせて戴いております。

入学直後の春、吹奏楽部の部室に行くと教科書でしか見たことのないトランペット、サクソフォーンなどの楽器があります。これには興奮しました。生徒は東北各県から来ており、県のコンクールで優勝するなど、楽器演奏でトップレベルの者が数名いました。吹奏楽部に顧問の先生がいましたが、先生は一度も指導に見えませんでしたね。それを吹奏楽の世界に精通している生徒が担いました。楽器を見るのも触れるのも初めての私は、入部はしたものの、彼らを尊敬しつつ相当なハンディを感じました。

当初はクラリネット(注10)を与えられましたが、180センチある私に楽器が小さく感じました。中学時代の音楽教科書にあった「正しい楽器の持ち方」も頭を過ぎり、なぜか馴染めません。私はトロンボーン(注11)の音が好きでした。実は当初からトロンボーンと決めており、半年後に担当の楽器を変えて貰いました。それからは授業中でも楽譜を広げ、読み、理解することに力を注ぎました。或る日、職員室に呼び出されましたが、幸運なことに先生方の目は温かく、優しさに溢れていました。半年で3rdを任せて貰えるまでになりました。

5. ビッグバンドに入団

高校卒業後は楽器を扱うどころか、音楽を楽しむ余裕は一切ありませんでした。20代前半の2年はフランス、後半はサハラ砂漠に住んでいましたし・・・。30歳で大阪に本社があるカメラメーカーに入社。堺市の社宅に入り、少しは落ち着きました。会社にビッグバンドがあり、目標のステージは年末のダンスパーティーです。それが私たちの目指す、一番華やかなステージでした。2ndトロンボーンでの参加で、高校以来、12年ぶりに触れる楽器です。開発部門、カメラやレンズの生産部門、人事や財務からも来ておりました。

約 100 人いる貿易部門からは私の他に、女性一人が参加していました。同じ貿易部でも仕事の繋がりがなければ会話を交わすことはありません。ヨーロッパ向けの輸出を担当していた当時は、テレックスを使った欧州各国の支社、あるいは代理店との業務が中心です。他部門の方々と接する機会は限られ、30 歳で途中入社的身には社内事情に精通する上で得難い機会となりました。途中入社が珍しい時代で、「最近入ったのって誰えー？」と見に来る者もいました。(私は動物園の見世物か！)それも 3 年後にはフランス駐在を命じられ、またトロンボーンから離れます。遊牧民にある持前の通性です。

15 歳で自宅を離れて 50 年、2011 年に常勤の仕事が終わりました。そして東京拙宅に戻りました。「東京に戻るのですか？それなら何コマか持って欲しい」。文化経済学会に所属する先生から頼まれれば断れません。それから 70 歳になるまでの 5 年は、特任教授など非常勤の立場で出講が続きます。非常勤には教授会や各種委員会から解放されますから、授業は持ちますが大学の運営には関わらない、言わば非正規就業者です。

新潟と静岡の大学は新幹線を利用しますが、残りの 2 大学は東京なので自由時間があります。いまが最後のチャンスと、「日本で平均年齢が最高齢のビッグバンド」に入りました。確かに、平均年齢は 72 歳、最高齢者は 92 歳のアルトサキソフオーン奏者というなかで、当時 68 歳の私は若者の一人でした。

音楽の素材となる音の高低、強弱、長短、音色は演奏者の技量に委ねられます。技量が高ければ音楽になりますが、低ければ雑音、騒音、噪音でしかありません。音楽の 3 要素はメロディー、リズム、ハーモニーですが、上手に組み合わせないと音楽になりません。

ところが取り組み始めると・・・次元の異なることが待っていました。35 年ぶりのトロンボーンですが、幾らマウスピースから息を吹き込んでも、プーの音も出ません。微音すら聞こえません。「マウスピースが合わないのでは？」などと慰めて下さる方もおりましたが、イヤイヤ、そういう問題でないことは分かっていました。

日曜日の全体音合わせの他、木曜日は有志 7~8 人で集まり、また、トロンボーンだけのパート練習を週一回入れ、空き時間があれば防音設備が施されたスペースを借りて、一人練習に励みました。トロンボーン中心のスケジュールです。45 歳で車の運転を止め、70 歳で免許証を返納していますから、ステージのある日も含め、移動の際は全て、朗妻が運転役を務めてくれました。2 年残っている前期 2 大学、後期 2 大学の出講日にも、新幹線では楽譜を読む徹底ぶり・・・本人も何故そこまで？と呆れながらトロンボーン漬けの毎日です。

当時の年間活動記録を抽出すると；

- | | | |
|----------|-----------------------|----------------------|
| 1 月 25 日 | 新春親父ビッグバンドコンサート | 東村山市 富士見公民館ホール |
| 3 月 21 日 | 多摩太鼓愛好会 335 周年記念コンサート | 多摩市 パルテノン多摩大ホール |
| 5 月 4 日 | 松本英彦メモリアルコンサート | 多摩市 パルテノン多摩小ホール |
| 6 月 7 日 | 同上 | 日野市 日野市民会館大ホール |
| 8 月 20 日 | 第 56 回夏季保育大学懇親会 | ホテルオークラ東京本館 平安の間 |
| 8 月 23 日 | ゆう桜が丘夏祭り | 多摩市 ゆう桜が丘コミュニティーセンター |

8月24日	第17回ひのアートフェスティバル	日野市 仲田の森蚕糸公園
8月31日	納涼祭	八王子市 明日見らいふ南大沢ホール
9月6日	永山団地名店街秋の大感謝祭	多摩市 永山団地名店街
9月27日	多摩市長寿を共に祝う会	多摩市 パルテノン多摩大ホール
10月4日	第47回小金井お月見のつどい	小金井市 都立小金井公園
11月23日	第12回定期ディナーコンサート	多摩市 桜美林大学多摩アカデミーヒルズ
11月24日	同上	同上

年10数回のステージがあり、ワンステージで15~6曲演奏します。従って、次々に新しい楽譜が手渡されます。練習生と準メンバーがいましたが、正式なメンバーは初見で演奏できなければなりません。どういう音楽仲間かを思い出すと、宝塚歌劇団のオーケストラ出身者、進駐軍のキャンプ回りやキャバレーで武者修行をしていた人、学生時代に大学のビッグバンドに所属し、夜はダンスホールやキャバレーで吹いていた人、同様に学生でありながら五木ひろしのビッグバンドに参加していた人、名門W大のハイソサエティ・オーケストラでバンマスをし、その後、永くプロで働いていた人・・・カラオケのない、生オケ全盛の良き時代を過ごしてきた先輩諸氏から、「35年間も楽器に触っていない？そりゃあ無理だ。5年かかるよ」「向こうの端で練習して」などと言われ、バンマスからは「皆と一緒にいるだけで立派」と褒められていました。(褒められ・・・いや、違います、褒めていません。アイロニーを込めた言い掛かりか、呆れ果てての風当たりか・・・)。

入団して3か月、ステージが近づいてきました。事務局から「どうしますか？」と聞かれ「私もステージに上がります」と即答しました。何時までも練習ばかり繰り返している訳には参りません。そこで事務局は私に、1小節の頭の音、一つだけを弱く出すよう勧めてきました。いろいろな譜面を眺めると最初の音は四分音符が多いので、以来、私は自ら「四分音符の男です」と名乗りました。周りの多くはプロの世界で揉まれ、活躍してきた方々。彼らは無謀な挑戦をしている私を、快く迎え始めていました。当初は正確な音出しができない、楽譜も読めない、ないない尽くしでしたが、徐々に皆さんの音に加わらせて戴けるようになっていました。

6. ディナーコンサート ー初めてのソロは“夜霧のしのび逢い”ー

2014年11月22日、23日のディナーコンサート(桜美林大学多摩アカデミーズヒルズ2階 鳳凰の間)を控えた10か月ほど前、正式メンバーになっていた私に事務局が「ソロをやりませんか？」と尋ねてきました。「映画音楽のLa playa(夜霧のしのび逢い)をやりたい」即答です。それを聞いたバンマスの佐藤進夢が「編曲は私がやります。ところで、音域は何処から何処まで出ますか?」。唇が未だ出来上がっていない私には有難い質問でした。

ディナーコンサートが行われる鳳凰の間は130人で満席になる広さです。そこに8人が座れる円卓で会場を埋めます。ディナーはアルコールを含めて飲み放題としており、チケット代金は8000円、7000円、6000円です。音響、ピアノ調律ほかの諸経費があり、一人当たりの損益分岐点は7000円。6000円のチケットを購入された方には、8000円の席をお求め下さった方が補填している・・・そんな感じです。

付け加えますが、楽団の「会計報告書」の財産目録に、スピーカー2台、譜面台18セット、キーボード&アンプ、トランペットとトロンボーンのハットミュート8組、折畳椅子11脚、譜面ライト50個、それに、ピンクジャケット、ピンク半袖シャツ、薄紫半袖シャツ、白ジャンパーが各々27着と記載されています。音が美しくに伝わり、ステージに統一感を持たせるためにも、それなりの費用がかかります。従って、通常は出演料収入があり、私たちメンバーも音楽活動でマイナスが出ない程度の出演料を戴くのですが、ディナーコンサートは家庭コンサートです。私たちは、謝金を戴かず、このチケット代金を設定していました。

ベース奏者の柏村博文が当日配布のパンフレットに、「暗譜が出来ない、練習時間も足りないとなイナイ尽くしのなかでも『音楽に優る道楽なし』と厳しい練習も一向に苦になりません。本番前は気持ちを落ち着けるため弦(げん)に触れながら『レッツ・スウィング』と3回唱えて験(げん)を担いでいます」と、お洒落な自己紹介をしています。通常の音合わせや本番前のリハーサル時にも、それぞれ準備があるのでメンバー同士が雑談を交わす余裕はありません。こうして少しずつ、バンド仲間を知ることになります。

柏村は学生時代からベースを弾いており、大手ゼネコン勤務を経て入団した当時は62歳。私の半年前に入団した若手です。毎週の音合わせには、両肩でコントラバスとエレキベースを担ぎ、両手にアンプや譜面台を始め練習道具一式を下げて家を出る。その総重量は50キロを優に超します。この姿を見ている家族がディナーコンサートの会場に参りません。団員20名の知人・友人も遠くから駆け付けます。

ちなみにメンバーの住まいは、多摩市6名、八王子市3名、相模原市、藤沢市、横浜市、杉並区、東村山市、昭島市、小金井市、国分寺市、調布市、日野市、稲城市各1名の計20名。パート別の平均年齢は、サクソフォーン74歳、トランペット67歳、トロンボーン71歳、リズムセクション65歳です。

私のファン?も北は福島から、名古屋、大阪・南は佐賀まで、新幹線や夜行バスを使って上京します。知人・友人を伴って来られる方もいます。チケット代は結構高いし、来場者の交通費も馬鹿になりません。東京宿泊になる方もおります。本当に人騒がせなことで、この機に及んで「音が出ない」など、グズグズ言っておれないのです!



当日のプログラム、第一部はソロ演奏です。Dream(ドリーム)のオープニング曲に続き、My Blue Heaven(私の青空)、It's Been A Long, Long Time(お久しぶりね)、Melancholy(メランコリー)、そしてLa Playa(夜霧のしのび逢い)が4番目にありました。映画「夜霧のしのび逢い」(ギリシア、1963製作)はギリシアの港町ピレウスを舞台にした娼婦たちの物語。1965年の日本公開時、クロード・チャリのLa playaが主題曲に差し替

えられ、邦題「夜霧のしのび逢い」として大ヒットした曲です。来場者は演奏が始まる30分前からディナーを戴いており、飲み放題ですから“出来上がっている人”もいます。

オープニング曲を演奏後はバンマスの挨拶です。「練習しても練習しても、そばから忘れていくというボケとの戦いです。そんな訳でそろそろ見納めかも知れないお爺ちゃんの演奏にお付き合い下さい」。パンフレットの挨拶にも同じことを書いています。ひどい言い方です。メンバーを笑われ者にし、会場から漏れる「苦笑い」を「受け笑い」と勘違いしている。そして「皆さん、飲んでいますか？アルコールで少し、お客さんの耳を麻痺させて演奏するのが我々のやり方です」。勝手なことを言い散らす放言に次ぐ放言。

ご家族や知人・友人がおられること分かっているながら、「さあ、次は、歯がない、毛がない、先がない方のソロです」（これって綾小路きみまろのパクリだ！）などと紹介するので、これからトランペットでソロを取る方の奥様は、最前列の席でバンマスを、ジーと見詰めているような、睨んでいるような・・・このMC、危なっかしくてヒヤヒヤモノです。



バンマスは楽器が温まって音出しがスムーズになる頃合いを見計らい、私のソロを組み入れていました。自分のソロがどこに入るか、結構ナーバスになっていましたから、この気配りには感謝・感謝です。ソロ演奏が終わって自分の席に戻る際に感じたのですが、来場されたお客様からは過分な拍手や励ましの掛け声が届きました。それに劣らず、センターマイクを離れて戻るまでに受けた団員仲間からの拍手、賞賛の音が嬉しかったですねえ。長いあいだ楽器を離れ、プーの音も出ず、楽譜が全く読めなくなっている状況から1年半、ソロを取る6名の一人に成長させて戴きました。バンド仲間の拍手は、彼らに相当な心配を掛けていた証です。

当時、某女子大学経営系学部で「企業メセナ・フィランソロピー」の科目を担当しており、受講生が書いた一部レポートの抜粋です。

「タマドリの活動を考える」

音楽は人々を元気づけます。また、ジャズオーケストラは少なからずありますが、タマドリームジャズオーケストラのメンバーには身体に不安を抱えている人がおります。これが多くの人に感動を与え、頑張る源となり、社会貢献(フィランソロピー)に繋がっていると感じます。「経済」本来の意味は、国を治め、民を救うこと、と学びました。

これを広義に解釈すると、バンマスが音楽的技量を統括し、メンバーの音色が人々に夢を与える。この経済活動を沢山の人に知って貰い、狭い地域を越え、国レベルの活性化に繋げて戴きたいです。
(4年、MK)

「93歳のサキソフーン奏者がおられる」と聞きました。一緒に暮らしている祖母も93歳です。そう考えると「お元気で凄いなあ」と思います。身体に不都合な場所があっ

も、やりたいことを楽しく行い、周りの人には元気を与え、そこにファンの輪が出来る・・・この好循環って素敵です。

私はゼミで幾つもの地域活性化運動に参加しているので、このビッグバンドに高い関心を抱いております。今日の講義は、自分に取り組んでいることに自信をもたらし、より一層、様々なことにチャレンジしたいと思う機会になりました。(4年、FS)

バンマスの佐藤進夢さんが、老人ホームなどの施設を巡回している、と学びました。音楽は、個人はもとより社会を元気づけます。確かに、佐藤さんが自らの信念として機能させてきた、永年にわたる諸々の行為は、発意性に基づくボランティア・アクションの必要性を提唱したP・ドラッガーの考えと符合します。

私はこのような自主的活動を凄く尊敬しますし、「何より、私自身が見習わなければ」と強く思いました。「各人が得意分野を活かした、皆が元気になる社会貢献活動が全国に増えると良いなあ」と思いました。(3年、AI)

年間を通し、10回の公演は練習時間が長く大変と思う。しかも、13年続いている、なかなか出来ないことです。長く続いているのは、演奏活動が収益を目的とせず、一生懸命取り組んでいる。その真摯な態度が社会的存在となり、それを高く評価するファンの支えがあるからと思います。

私も中学時代にブラスバンドで演奏していました。当時を懐かしく思いながら、「子供でもできる。社会貢献活動に、大人も子供もないのだ」と、今までの考えを改める切掛けになりました。(3年、YN)



7. 前田憲男と共演

趣味に耽る余裕のある方は、ないよりは幸せです。自分の仕事が新しい生活空間を創ることに寄与している方は、そうでない方よりは幸せです。自分の好きなことに社会的意義がある方は、ないよりは幸せです。この趣味、創造、奉仕の三つは、所有、貯蓄、支出よりは洗練された、優れて人間的欲望と指摘したのはフランスの経済学者フランソワ・ペルー(1903～1987)です。

経済的な余力を、戦争をしないという消極的な対応だけではなく、メセナやフィランソ

ロピー活動のように積極的に良く使うことができれば、私たちの暮らしに素晴らしい効果を発揮することでしょう。しかし、若しもこの余力を悪く使えば、大きな浪費と不幸を招くだけです。良い方向に振り向けるには覚悟のある新しい努力が必要です。工業化や民主化は越えても、いまなお人間本位主義は、確立するには至っていないからです。強い意思力で、冒険的に取り組む必要があります。

古代から現代までを振り返ると、権力者が金を持ち、暇を持つことで、どれだけの不幸がもたらされてきたことか。貧しいが故に努力を重ね 勤勉に働いて億万長者になった人が、折角の余暇を持った時からエネルギーを、戦争に振り向ける、他国を経済的に侵略する、自分より弱いと思う他国民をいじめる・・・、かような事例が世界のあちらこちらで起こっています。

2025年5月13日、その清貧な暮らしから「世界一貧しい大統領」と言われたホセ・ムヒカ・ウルグアイ元大統領が亡くなりました。報酬の大半を寄付し、自分は農場暮らしの質素な生活でした。上下両議院や農牧・水産相を歴任後、2010～15年に大統領職にありました。2012年の国連持続可能な開発会議で「貧乏な人とは無限の欲があり、いくらモノがあっても満足しない人のことだ」と演説。2016年に広島を訪問した際に「私たちは過去の過ちから学んだらどうか」と記帳しました。

力不足を承知の上で「しょせん人ごと」と放置せず、「自分ごと化」として考えるよう努めております。なぜなら日本でも、某有事を念頭に防衛力を強める南西シフトが進んでいるからです。2010年の防衛計画大綱で示されて以来、2016年の沖縄県与那国街を皮切りに宮古島市、鹿児島県奄美大島、沖縄県石垣市に駐屯地が新設され、ミサイルの配備も進んでいます。

年間400万人の観光客でにぎわう大分県由布市。由布岳の麓に2025年3月30日、ミサイル連隊が新設されました。これで全国に配置する7つのミサイル連帯は全て揃ったと伺いました。不勉強で政治に疎い私ですが、とても心配しています。駐屯地の前で市民ら20数名が歌で抗議をしました。この時、当地の市民は遣る瀬ない思いに沈みながら歌っていたと思います。気懸りです。とても案じています。有事に市民を巻き添えにしない「軍民分離の原則」は守られるのでしょうか。

ディナーコンサートですが、会場で演奏を聴かれる方々には最良の音バランスでお聴き戴けるよう配慮しております。4名の音響スタッフがリハーサル時に、ピアノとベースの返し音が私たちに聞こえるよう、マイクとスピーカーの位置や音量を入念に調整しています。私がソロを取る時は、スッカリ気心の知った音響担当者から、トロンボーンのベルの位置について細かい指示が言い渡されます。

ところで、私たちは皆さんのように、音楽を楽しんでいるとお思いですか？私は両隣りと真後ろの音は直接、そしてリズムセクションの返し音はスピーカーを通して聞こえますが、二人先になると全く聞こえません。私たちの美しい音色？を味わうことができるのは、正面でステージと向き合っているご来場の皆様方だけです。

ヴィジュアルな効果を出すため、バックの色が変わったり、様々な絵柄が映し出されます。コンサートでは耳と目の双方から楽しんで戴けるよう、音響とライティングの相乗効果を創っていますが、私たちはそれを楽しむ状況にもありません。会場のお客さんの方向を見ております(と言うより暗譜することができないので、譜面を見詰めております)ので、当然のことですが、後ろで起きていることは一切わかりません。後々に写真を見せて貰うしかないので。

「夜霧のしのび逢い」の後、「枯葉」「雪が降る」でソロ演奏する機会を戴きました。編曲者はバンドでピアノとアルトサクソフォーンを担当している望月直久。高校時代にジャズバンドを結成、大学時代はピアノで学費を稼いだ苦労人です。スタンダードから演歌まで、彼のお洒落なアレンジは絶賛されていました。お芝居で台本が大切なように、ビッグバンドには編曲者との信頼関係も不可欠です。こうして演奏した曲数が約350(注12)になりました。

前田憲男(1934~2018)との共演(写真下)も貴重な体験で、リハーサル時からワクワクしておりました。日本のジャズ界では特別に大きな存在でした。「漫画やアニメが大好き」というジャズピアニストで、作曲家、編曲家、指揮者。前田から「ピアノと指揮は独学で習得した」と聞きました。東京フィルハーモニー交響楽団ではポップス部門の音楽監督で、編曲と指揮を担当しておりました。リハーサルでは私たちへの指導より、音響室に長く入っていたことが心残りです。惜しむらくは、もっと指導して戴きかった。とても残念です。



8. なぜ「芸術経営学」—行政・企業・芸術家(団体)・市民—

マネージメント系と会計・情報系に分かれる経営学を投影し、“経営実務”を視座に芸術活動を整理し、まとめたいと考えた切掛けがありました。セゾン美術館に在籍していた折り、幹部に「この美術展で何人くらいの入場者を見込んでおりますか」と聞いたら「やってみなきゃ分からないよ」と応えたのです。

驚きました。「やってみなきゃ分からない」状態で美術展を企画・実施してきたのですか？前職のカメラメーカーで、自社製品にどれくらいの消費者が関心を寄せて下さるかを考えず、カメラ・ボディやレンズを生産し、船便や航空便で製品を保税倉庫に搬入し、「売ってみなきゃ分からないよ」と言い放って、取敢えず売値を決め、販売計画を立てるなど考えられないからです。

セゾングループに加わる前、堤清二から「ガラスが好きだ。彫刻が好きだ。油絵が・・・そういうのは多いが、お金に関わることには無頓着。美術館の運営を経営目線で対応できるスタッフがいない」と嘆く声を聞いていました。ただ、好きなものを追いかけて、数字に無頓着な姿勢は、オーケストラの運営でも見ていました。

松原千代繫も、「オーケストラ界に限って言えば、マネジメントに携わっている99%は音楽家出身であり、それぞれが何らかの理由で、その人生を表方から裏方に転進している。従って体験的・体感的なマネジメント能力は備わっているが、その裏付けとなる理性的・学問的な能力は乏しいと言わざるを得ない」と編集後記に記しています。

「芸術経営学」の体系化が必要だ、と永年思っていました。その背景を行政、企業、芸術家(団体)、市民各々のサイドから考えると：

- ① 行政サイドには、地域性を醸し出し、新たな生活文化空間を作り上げる役割があります。よその自治体の成功例を拾い上げ、堂々と前例主義がはびこるようでは心もとないと考えていました。地域の活性化は、地域に根差した芸術文化振興策の下で、芸術文化の花が、あちらこちらで咲くことから始まります。
- ② 企業サイドは、企業が存在する地域を活性化させることが大切です。社員には業務の中に独創性を生み、新しい企業文化を醸成させることが求められます。経営資源を芸術文化に投入することで、国際化の進展に伴う企業存在の価値が変わります。経団連に社会貢献部が新設され、「1%クラブ」ができた所以です。
- ③ 芸術家(団体)にとって安心して創作活動に打ち込むには、市場形成・拡大のマーケティング活動が必要です。ファンレージングには、経営マインドに基づく緻密な計画と折衝能力が求められますし、経営実務が芸術家(団体)に蓄積されれば、社会を見据えた長期的ビジョンでの運営が可能になります。何よりも“社会的存在としての芸術に関わっている”ことの意識を持って欲しいと考えていました。
- ④ 市民サイドですが、あらゆる消費は市民の参加なしには生まれず育ちません。芸術は享受者とともに生成されます。受容能力のないところに創造的芸術は育たないのです。芸術が育つとは、ファンに支えられた息の長い行動の結果です。音楽を聴く鑑賞能力を高めることも必要です(注14)。

9. 芸術経営学講座シリーズ『美術編』『音楽編』『演劇編』『映像編』

東海大学出版会の編集会議で、美術、音楽、演劇、映像を柱とする4巻シリーズの発行が決まりました。各々の業界の誰かに編者を担って戴く必要があります。実務に精通していること、業界の人間を広く知っていること、出版意図を理解できている人、この三点は必須です。『美術編』はサントリー美術館の主席学芸員で、ガラス研究の第一人者の土屋良雄、『音楽編』は新日本フィルハーモニー交響楽団秘書役の松原千代繫と新星日本交響楽団専務理事で楽団長の樽松三郎の二人、『演劇編』は「劇団四季」の元取締役で、同劇団の経営管理システムをつくった山田翰弘、『映像編』はアテネフランセ文化センター主任の松本正道にお願いしました。

監修者が編者を決め、編者が執筆者を決めるのが基本です。編者との打ち合わせで、経営実務の体験がない人は執筆者から外すようお伝えしました。例えば、たくさんの本を読

み、執筆に慣れていても、大学から一步も外に出たことがない人が書く、オーケストラの運営、コンサートの企画・宣伝・販売、オペラ制作・・・では、実務活動を通してしか見えてこない内容が、原稿に強く反映されないからです。

『美術編』11名、『音楽編』16名、『演劇編』10名、『映像編』20名、合計57名の執筆者が決まりました。『音楽編』に入稿した大学人は、「オペラとアート・マネジメント」の下八川共祐・昭和音楽大学理事長、「音楽事業に関する法律」の大家重夫・久留米大学法学部教授、「日本におけるコンサートホールとその課題」の清水裕之・名古屋大学工学部助教授ですが、この方々は各々の専門領域で豊富な実務体験を重ねていました。

先ず、编者から届く構成が「ああ、内容的に面白そうだね。経営数値も出てくるし、業界の方々にも読んで貰えそう。全体の流れが体系化されていて、これなら大学の教科書にも使えるね」という内容であれば嬉しいのですが、そうでない場合、原稿に追加訂正をお願いすることになります。凄い労力を使っていることが分かっても、最悪の場合そのまま没になります。57名の執筆が始まり、それぞれに決められたテーマ、文字数で入稿期限日まで提出して下さった原稿への対応も同じです。どんなに頑張っても駄目なのは駄目なのです。

人間関係ですか？当初より信頼関係があつての出版社—監修者—编者—執筆者ですが、壊れても致し方ありません。良書の出版を全てに優先させることを、出版元との間で決めております。出版社からは、「売れる、売れないは気にしないで、良書を作ってください」（木下正之）と伺っています。「この企画は、どうしても成功させたい。若し私どもで出版できないようだったら、よその出版社に私が持って行きますから心配しないで下さい」（同）と、担当編集者も不退転の覚悟で取り組んでいることを知っております。

木下には、装丁、いわゆる表紙のデザインを担う道吉剛デザイン事務所や、印刷所の港北出版印刷、製本所の石津製本所にも連れて行って貰いました。全工程を学ぶためです。当時ブック・デザインで独り立ちしているのは100人と言われていました。道吉は日本を代表するブック・デザイナーの一人で、1964 東京オリンピックや1970 大阪万博のデザインに関わっていました。超多忙な道吉が笑みを浮かべ、4巻シリーズへの私の思いを聞いて下さいました。

いろいろなことが起こります。執筆をお引き受け下さった方から電話がありました。内容は「原稿料が少ない。もう少し上げて貰いたい」。業界では大変有名な方ですが、原稿料は監修者が決めることですか？この方ですか？ハイ、入稿されました。著名な俳優で、映画を半分撮った頃、「ギャラを上げて欲しい」と仰る方を思い出していました。このご高名な俳優、何時もそうなのです。

皆さんのお力を借りて『美術編』246頁、『音楽編』274頁、『演劇編』200頁、『映像編』300頁の芸術経営実務書、全4巻シリーズ(総頁数：1020頁)が出版されました。執筆者の一人である映画監督の大島渚は、『映像編』の「私の映画経営」(pp. 1~6)で、こう書いています。「・・・足りない時は小山明子への借金となった。全ては少しずつ赤字だった。小山への赤字は積み重なってゆくばかりだった」。最後に「私はこの本の読者の中から、プロデューサーが出てきてくれることを切望している」。



映画界は由々しい環境にあり、重且つ大であったことが伝わってきます。大島は57名の執筆者のなかで、ただ一人、手書き原稿を提出しております。『映像編』への強い期待がほとぼしっていました。

10. 『音楽編』出版までの“あれこれ”

本稿テーマの『音楽編』に限ったお話しです。音楽にも様々なジャンルがあって、その範囲は広い。例えば最近は、「金子みすゞ生誕120年 こころの鈴の音コンサート」を企画実施している「やぎりんトリオ・リベルタ」(注15)に注目しています。しかし『音楽編』で扱う対象は「オーケストラの運営」に決めました。今までに相応の歴史があり、殆どが財団化されていて、毎年、正確な経営数値が出ているからです。執筆依頼をしてしばらくしてから原稿を見せて戴くと、クラシック音楽産業の仕組み、舞台・演奏芸術家の活動形態、タイプ別に見たオーケストラの収入構造、年間公演活動一覧表、楽曲別オーケストラ編成表・・・様々な図表の掲載準備もしていました。

しかし、肝心の収支計算書がありません。意に満たない、これでは経営学の実務書になりません。収入の部を大科目、中科目、小科目に整理し、多少数字を変えても原稿に示す必要があります。同様に支出の部、加えて貸借対照表(注16)の掲載も不可欠です。その執筆者は編者です。文字原稿と多少の図表では、今回の企画と乖離があり出版できません。

「世に少なからず出ている『経営書』の構成、そして執筆内容を、パラパラとでも良いから読んでおられないのかな?」と思いました。その編者の要請で執筆陣に加わる方々への影響も考えました。下八川共佑、大家重夫、清水裕之、そして、田中珍彦・東急文化村・常務取締役の4人には私から執筆依頼をしています、オーケストラ界の方々には、松原千代繁と樽松三郎をお願いをしています。

二人は日本のクラシック界を背負う立場にありました。松原(1941)は東京芸術大学音楽学部を中退して日フィルに入り、後に新日フィルの創設に参画。日本オーケストラ連盟(1990年に任意団体で発足。2012年、公益社団法人に移行。現在は、正会員27、準会員13、合計40のプロオーケストラが加盟)の常任理事の立場です。

樽松(1945)も同大学を経て新星日本交響楽団を創設した当事者です。1981年、1500余

名からの寄付金を基に同楽団を財団法人化し、以降、専務理事・楽団長として、松原とともにオーケストラ界の枢軸にいました。当時、新星日響の理事長は黒柳徹子です。「徹子の部屋」の収録(一度に5回放送分を収録)でテレビ朝日にいる黒柳と会い、樽松と3人で“自主運営のオーケストラ”の有りようを話し合っていました。黒柳が時間に追われている時は、自分が運転する車に私たちを乗せ、地下鉄駅に送るまで話し続けていました。

そして一、新星日響は経営基盤の強化を図るとともに更なる音楽的向上を目指すため、2000年5月25日に財団法人東京フィルハーモニー交響楽団と合併契約書を結びました。確約の証として東フィルは会長・理事長の大賀典雄・ソニー会長、新星日響は理事長の黒柳徹子が署名捺印を致しました。2001年1月24日、「平成12年度理事会・評議員会」が開かれ、議案に新星日響の解散権決議が出されました。新星日響は不況と聴衆数の低迷で、厳しい経営に陥っていました。

4月1日付で合併し、財団名を新星東京フィルハーモニー交響楽団とする、新「東京フィルムハーモニー交響楽団」の誕生です。経営が厳しくてもリストラは行わず、楽員168名を抱える日本最大の楽団となりました。現在、経営再建中の日産が2工場の閉鎖を決め、5700人の従業員が雇用や処遇への不安を募らせている状況(2025年5月17日現在)とは真逆の対応です。およそ人員削減で一時的に業績を上げても、それは退職する人の犠牲に拠るものであって、経営努力の成果では一切ありません。商品担当者として危機を招いたイバン・エスピノーサ社長は自分の報酬を返上し、従業員にリストラをお願いする立場です。従業員は他工場への配転で単身赴任になるか、退職するかの二者択一です。

他方、新星日響は1969年以来32年、日本初の自主運営オーケストラとして活動してきましたが、2001年3月25日の演奏(東京芸術劇場)を最後に、新星の名を冠した活動を締めくくりました。

新星日響の台所事情は大変でした。当時、年9回の定期演奏会をサントリーホールで行っていましたが、有料座席数の93%を埋めても年間3000万円の赤字を出していました。赤字を解消するには机上の計算で、入場者数を100%にすることと、A席5500円～学生席1700円のチケット代を40%上げる必要がありました。国から「民間芸術など振興費補助金」として年間2000万円の補助が出ていましたが、国庫補助金は縮減の流れにありました。それは楽団員の楽団別の給料格差にあらわれました。

NHK交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団は、金銭面で放送局、東京都、読売新聞社からバックアップがある団体です。収入に占める公演以外の補助金収入が、3団体平均で55%ありました。それに対して新星日響など自主経営オーケストラの収入に占める文化庁補助金収入は2%程度でした。3団体の平均年収が上は1.200万円あるのに、それ以外の団体で200万円に届いていないオーケストラもありました。水産界、精密機器業界・各業界の企業間に格差があるのは分かっています。大学間にも相当な給料格差があります。しかし、ほぼ同じ仕事をして6倍の差です、6倍！

楽員から「給料を上げて欲しい」という要望が上がりました。「楽団運営の助言」を役割とする評議員が二人おり、取敢えず会議場に参りました。ところが出迎えてくれたの

は、とても年収では買えない高級車。それも数台が駐車場に並んでいました。会議のテーマとは離れた雰囲気を探ねると、「音楽をする方には裕福な方がいて、オーケストラからの給料など必要のない方もおります」。

確かに、ここにあるのは汲々とした生活を余儀なくされている楽員と、小さい時からレッスンに通い、高額な楽器を買い与えられてきた裕福な楽員の混在です。新星日本交響楽団という小さなコミュニティーでの格差社会。恩恵が幅広く行き渡ることを優先させれば、困っている団員へのメリットは少なくなります。裕福な人だけが恩恵に・・・今の世相と変わらない光景です。

榎松三郎が楽員の過酷なスケジュール(注17)とともに強調していたことが忘れられません。「文化庁の担当者は私たちの活動に理解を示して下さるが、金庫番の大蔵省をはじめとする国は、一体何を考えているのでしょうか。文化芸術は“人間が人間らしく生きる”のに必要不可欠です。植物でも或る栄養素を欠いたまま育つと、葉は生繁っても花は貧弱なものしか咲きません。

文化庁による補助金は、財政再建という流れで大ナタが振るわれる一方で、政府は「湾岸戦争に1兆2000億円の出費をしています。これは文化庁の「民間芸術など活動補助金」6億9500万円の1726年分に当たります。それに、現在の広告代理店を通した冠、協賛などの支援ではなく、芸術団体と直接的な関りを持って欲しいのです」。榎松からは広告代理店の介在に対する言及もありました。

広告代理店に勤務されている方々、どのようなことをなさっておられるのか、どうも業務内容は詳らかになっていないようです。実は、ここにも？この時間に？と思うくらい、色々な領域に顔を出していました。

こんな経験があります。民間企業で働いていた折り出勤すると、大手広告代理店の社員がいました。そして、部門トップの重役が席に着くと「先日はお疲れ様でした。次回のゴルフは・・・」と言い、腰を深々と折り曲げ挨拶をしていました。その一方で、ドイツから合唱団を招こうとしていた同僚が「ウチを通さなかったら、その企画はぶち壊してやる」と凄まじっていました(注18)。出版は混沌としたなかで進められておりました。

11. 音楽がもたらす恩恵一聴く、歌う、演奏する一

草木や花の命は、山や岩の命に比べるべくもなく短い。しかし、草木のない大地は、いかにも殺風景なものにしかない。つかのまの命が私たちの生活に潤いを与えている。世界の一流歌劇場で活躍したオペラ歌手の東敦子(1936～1999)が「音楽のように、消えてしまうもの、むなしいものが人間には必要と思う。現代の社会では形のあるものの価値は評価します。しかし人を感動させ、一瞬にして形を失ってしまう芸術に触れることで、人はより豊かな魂を持つことができる」と問いかけました。外見至上主義のルッキズムに警鐘を鳴らし、内面至上主義のアンチルッキズムに傾斜をかけることの大切さを促しました。

ようやく東の声が届いたのか、女子アナやタレントの登竜門とされた大学ミスコン(ミスキャンパス)が、外観重視や性差別の観点から廃止されております。それに代わって自己PRや、スピーチ、SDGsで多岐にわたって活躍した人がグランプリに選ばれる「ソフィ

アンズコンテスト」を立ち上げた大学もあります。

本稿がテーマとしている音楽ですが、その関わり方は様々です。中東から日本に連れて来られている方は、会社の日本人スタッフと度々カラオケに行かれるそうです。「カラオケは歌う天国、聞く地獄」とも言いますが、彼が歌うのは演歌。演歌を歌えば日本人の心を掴み、スタッフとの絆が深まって大いに盛り上がるのだとか。この駐在員、良い所に目を付けました。

高齢者にとってカラオケは、健康産業そのものです。外出への切掛けになりますし、張りのある声を出したいと願う人は日頃から運動能力を高めるよう努めます。一曲の歌は約3分。振付ありで24キロカロリー、振付なしで8キロカロリーを消費します。カラオケ療法の範囲も広く、例えば青春時代に好きだった曲を、当時を思い出しながら歌えば、失感情症(アレキシサイミア)への効果があることも分かっています。

改めて音楽がもたらす恩恵を、聴く、歌う、楽器演奏の3点から考えたいと思います。

- ① 音楽を聴くとドーパミンが分泌されて行動の動機付けが促され、前頭前野が刺激されて計画や判断に関わる神経ネットワークが活性化されると伺いました。また、脳内の扁桃体が音楽に反応し、ポジティブな感情を引き出して副交感神経が優位になってストレスが和らぎます。
- ② 歌うことで得る効能です。気分が良くなって脳の働きも良くなり、健康になると言います。90歳を越えて男性合唱団「シリウス」で歌う友人の河西啓二が、「運動の代替になり、姿勢の改善にもつながって健康維持には最高です」と教えてくれた。高齢化に抛る退団者が多く存続が困難になり、「これからは混成合唱団で歌います」。
- ③ 楽器演奏は思考能力が高まり、老化を遅らせて認知症の予防にもなると耳にしました。歌謡曲の譜面と違い、ジャズの譜面は容易ではありません。そして合唱と演奏はコミュニティを形成したチーム活動であり、喜びや感動を共有することになります。音楽は良いことばかり、ってことです。

2025年5月14日、国連児童基金(ユニセフ)が子供の幸福度を調査した結果を公表しました。若者の自殺率が4番目に高いなど、日本は「精神的な健康度」が32位と低迷しております。識者は「日本では子供が精神的な問題を抱えているという意識が薄い」(阿部彩・東京都立大学教授)と指摘しています。学校教育を含めた「音楽と子供」の関わり方を、検討する必要があると思っています。

おわりに

経営学は、ある価値を算出する目的でつくられた組織による経済的・技術的・人間的側面を研究の対象とします。そして利潤という客観的な尺度を評価基準とし、その最適化理論を実務活動の中から発掘し、体形化しようとするものです。そうになると、経営学が扱う領域は民間企業だけではなく、個人、家庭、学校、病院、行政、農業、国際機関から国家、地球まで含み、営利、非営利も問いません。従って、創造活動を基とする芸術団体も、経営学の研究対象に含まれることになります。

経営学は私利私欲を満たすために活用されるものではありません。私たちの生活と密接に関わるものとして、その理論は実践的で役立つものでなければなりません。長い歴史がある経営学で、水と油のように整理されて来た芸術と経営。それを相互が支え合う関係にあることを踏まえ、体系化を試みさせて戴いたのが芸術経営学講座4巻シリーズです。

文中で不遜な物言いをしましたが、どうかご容赦下さい。当然、私一人では何も出来ません。最後に執筆者に敬意と深謝の意を込め、お名前と執筆された担当項目(注19)を示させて下さい。

私の不勉強でしょうか、この類の実務書を他に見ておりません。様々な視点から企画された類書が、たくさん刊行されることを願っております。(文中の敬称略)

【注】

(注1)1989年11月の3連休に「67時間ラジオいきいきラリー」と題した特別放送を実施し、通常は保守点検を行う深夜の時間帯に音楽や落語を放送した。それが中高年層から“大人が聴くことのできる静かな番組”として支持される「ラジオ深夜便」の誕生に繋がった。1991年4月から仮定時放送に移行し、月末を除くほぼ毎日、放送された。1992年4月6日の放送分から23時台の開始になった。設備機器の保守作業や点検で、月に数回の休止日がある。

(注2)2025年6月を例にあげれば、①作家(作詞・作曲・編曲)編：石本美由紀、漣健児、中村八大、猪俣公章、吉田正、千家和也、都倉俊一、北山修、大村雅朗、康珍化(=森田記)、萩田光雄、②歌手編：ディック・ミネ、美空ひばり、村田英雄、鶴田浩二、倍賞千恵子、岩崎良美、薬師丸ひろ子、新御三家特集、沢田研二、③歌年鑑編：昭和38年の流行歌、昭和60年の流行歌、昭和47年の流行歌。以上『NHKラジオ深夜便』(NHK財団,2025年6月号)

(注3)「若ノ花物語」配給：日活。あらすじ：当時の人気力士、大関若ノ花(本名：花田勝治1928~2010)の半生をそのまま映画化した。家計を助ける大黒柱であったが、二所ノ関部屋の大ノ海に見込まれ、母親さへの理解を得て1946年に入門。稽古は凄まじかったが精進を重ね、1950年に入幕、1956年に大関に昇進した。子供・勝雄をもうけ絶頂にあった。しかし、同年9月場所前、ちゃんこ鍋を引っ繰り返した不意の事故が起り、火傷で勝男が亡くなる・・・身長179センチ、体重105キロは、戦後最軽量の第45代横綱。

(注4)アメリカでは技術革新があっても、一度創業者が国内市場で地歩を固めると権力介入を求め、政治へのロビー活動が活発化する。そして、市場取引の自由を阻害する規制や基準が導入され、技術革新のコスト削減効果は小さくなる。労働者への実質賃金の見返りは少なく、成長の利益は分配されない。トランプ大統領の就任式に、テラス、アマゾン、メタ、アップルなどのトップが列席、権力にすり寄る姿があった。彼らは創造的な破壊を掲げた自由の旗手ではない。ここ20年、アメリカの産業では競争が減っている。トマ・フィリポン『競争なきアメリカ自由市場を再起動する経済学ー』に詳述。

(注5)前国旗は1959年3月22日にモーリタニア憲法第5条で定められ、同年4月1日に制

定、翌 1960 年 11 月の独立で正式にモーリタニア国旗となった。三日月と星はイスラム教のシンボル、緑はイスラム教を象徴し、黄色は砂漠の砂を表す。新国旗は 2017 年 8 月 5 日に実施された憲法改正で決定され、同年 8 月 5 日に採択された。新国旗に加わった赤は、国のために流された血を象徴している。国旗の上向きのパターンは珍しく、他の国旗には余り見られない。

(注 6) ウード：プレクトラムを用いて演奏する。中東からモロッコにかけてのアラブ音楽文化圏、そしてギリシアで使われる。リュートや琵琶と近縁で、半卵形状の共鳴胴を持ち、ネックの先が大きく反っている。ただし、リュートや琵琶と違い、フレットを持たない。弦は、6 コース 11 弦。ラーバブ：2 弦の弓奏楽器。胴の形は種々あるが、膝の前に直立させて演奏すること、2 弦を 5 度に調律することには変わりがない。当時流行のギター系楽器の影響を受け、今日のヴァイオリンに発展した。ナッカーラ：中東で使用される鍋型或いは鉢型の太鼓。金属製、木製、土製などの胴体に皮を貼り、紐で絞めてある。音高の違う二つの太鼓を一組にして使用する。ティンパニーの原型と考えられている。

(注 7) 常磐津紫弘(現五代目常磐津文字兵衛)「鬘眞の断面」pp. 187～196、尺八奏者クリストファー遥盟ブレイズデル「芸術への支援と無支援—全く個人的な四つの体験—」pp. 265～275。佐々木編『企業と文化の対話』(東海大学出版会)。常磐津は洋楽ロックとの融合にも力を入れ、カーネギーホールで演奏した。2012 年、重要無形文化財「常磐津節」総合認定保護者。クリストファー遥盟は国際文化会館芸術監督、テンプル大学講師などを経て、現在ハワイ大学講師。

(注 8) 若林忠宏『アラブの風と音楽』(ヤマハミュージックメディア)pp. 20～34 に詳述。関口義人編『アラブ・ミュージッカーその深淵なる魅力に迫る—』(東京堂出版)、西尾哲夫、堀内正樹、水野信男編『アラブの音文化—グローバル・コミュニケーションへのいざない—』(スタイルノート)の第 5 章「座談会」pp. 246～295 で、水野信男と小田淳一の会話 pp. 291～292 を参照。

(注 9) 手で「ふいご」状の蛇腹を動かし、楽器の中に空気を出し入れしてフリー・リードを鳴らす。蛇腹操作の“押し引き異音式(ダイアトニック)”と“押し引き同音式(クロマティック)”の二種類ある。関西で手風琴が流行した明治の初期は輸入品ばかりであったが、同 30 年代から国産手風琴の製造販売が見られ始めた。日本で手風琴と言えば、明治から大正まではダイアトニック・アコーディオンが主流であり、ピアノ・アコーディオンは昭和 10 年代の流行期から広まり始めた。

(注 10) 1700 年頃に製作されたのが始まりとされる。円筒管を用いて閉管式の音振動によって音を出す木管楽器。特殊な発音原理と構造を持ち、音色は美しく、表現力は多様で広い。管弦楽、吹奏楽、室内楽、軽音楽など、あらゆる面で広く使用される。アンサンブルでも透明な音色と輝かしい音勢を備えているため、吹奏楽ではヴァイオリンと同じ、重要な役割を担う。寸法は必ずしも一定しないが、管長 70 センチ未満、朝顔の内径 6 センチ、口径 15 ミリ弱。

(注 11) ドイツのハンス・ノイシュエルが現在の形に完成させ、以来 500 年以上、基本構造が変わっていない。トランペットと共に代表的な金管楽器。チェロと同等の低音域をもつ。スライド式とバルブ式があり、トロンボーン固有の音色を出すにはスライド式が優る。左手で楽器を支え、右手でスライドの伸縮を調節し、正確な音程を出すことができる。音色は壮大・柔和のいずれも可能で、オーケストラ、吹奏楽、またジャズなど軽音楽の独奏用として用いられる。

(注 12) イン・ザ・ムード、茶色の小瓶、タキシード・ジャンクソン、真珠の首飾り、スリーピー・ラグーン、ワン・オクロック・ジャンプ、アメリカン・パトロール、ビギン・ザ・ビギン、ペンシルバニア 6-5000、A 列車で行こう、チャタヌガ・チュー・チュー、キャラヴァン、レッツ・ダンス、その手はないよ、ブルースカイ、素敵な貴方、アランフェス協奏曲、黒いオルフェ、アマポーラ、ひまわり、歌謡メドレー(空港、釧路の夜、有楽町で逢いましょう、君こそ我が命、新潟ブルース、泣かせるぜ)他。

(13) 前者は経済システムに必要な組織、管理、戦略など経営体の行動を実践的に学ぶ。具体的には、経営環境と戦略、経営組織、マーケティング、財務管理、人事・労務管理、能力開発、生産管理など。後者は事業経営に不可欠な計数管理を、理論と実務の両面から学ぶ。具体的には、財務諸表の作成プロセス、貸借対照表の財務構造、資本の調達、資本調達に関する意思決定と資本構成問題、資本の運用、損益計算書の財務管理的構造など。

(注 14) なぜいま芸術経営学か(佐々木)、現代社会と芸術教育(杉江淑子)、社会の活性化と芸術の役割(海老田輝己)、市民参加型の芸術活動と芸術経営(中原紀)、若者の芸術活動から探る新しい芸術社会像(有馬昌宏)、芸術と社会の出会いの場(守屋秀夫)、芸術文化施設の特徴と課題(本杉省三)、エンターテインメントと法律(内藤篤)、ジャーナリズムの役割(峰尾一路)、芸術産業のビジネス構造(伊藤裕夫)、経営計画と管理運営のノウハウ(山田翰弘)、事例 東京・六本木「俳優座劇場」(富永一矢、山田)、芸術産業への経営学的アプローチ(佐々木)、文化政策と文化行政の現状と課題(野田邦弘)、企業活動と芸術活動—相互に付加する役割—(佐々木)、事例 富士市文化会館 ロゼシアターの運営(小林卓)、博物館の課題と新しい経営の考え方(佐々木亨)、芸術産業時代のアートマネージャー(佐々木)、芸術活動と経済パフォーマンス(池上惇)、以上、佐々木編『芸術経営学を学ぶ人のために』(世界思想社)の構成と執筆者。なお同著に、日本における経営学の成立と流れ、規範的経営学と芸術経営学、豊かさ志向的経営規範と経営学の基本概念(以上, pp. 191~204)、企業の発展と社会の発展、企業の文化的責任、企業の文化化と共栄への視座(以上, pp. 226 ~240)、芸術と経営への理解、アートマネージャーの展望(以上, pp. 271~ 282)を詳述。

(注 15) 八木倫明(ケーナとナイと訳詞)、藤枝貴子(アルパ)、清永アツヨシ(ギター)のトリオ。これに河向貴子が「読み語り」で加わる。八木は作詞家として、クミコの《広い河の岸辺》で 2014 年メジャーデビュー。湯川れい子が「日本の歴史に残る歌」と絶賛。外国民謡の異例のヒット曲として NHK「おはよう日本」「特報首都圏」などで報道。テレビ朝日「徹子の部屋」に出演、名古屋・宗次ホールで多数回公演。著書に『広い河の岸辺』『ひろいかわのきしべ』『わくわくオーケストラ楽器物語』ほか。

(注 16) 基本財産収入、賛助会員収入、寄付金収入、事業収入、雑収入はどうなっているか。例えば、演奏事業の入場料収入、委託出演料収入、普及公演収入、放送料収入、広告料収入、助成金収入、協賛金収入、国庫補助金・・・同様に支出の部では演奏費として、指揮者出演料、独奏者出演料、エキストラ出演料、音楽費、文芸費、保険料、旅費、会場費(練習・本番)、楽器運搬費、プレイガイドへの販売手数料、団員給料、福利厚生費・・・貸借対照表も資産と負債・基金の科目に従って、現金、普通預金、未収入金・・・或いは未払金、前受け金、預り金・・・。

(注 17) 新星日響の年間 208 回公演は、他のオーケストラと比べて飛びぬけて多い。音楽鑑賞公演など、一日 2 回公演もあり、公演日数は年間 181 日になる。公演のためのリハーサルもあり、オーケストラの稼働日数は年間 335 日に及ぶ。楽員は全部のスケジュールに出演しないが、年間平均 265 日の出番は個人で勉強する時間も考えれば過酷である。樽松三郎「新星日本交響楽団の活動と台所」佐々木編『企業と文化の対話』pp. 158 ～175。

(注 18) 樽松三郎の「広告代理店を介入させないで欲しい」という言葉から、東京五輪・パラリンピックを思い出す。スポンサー企業から賄賂を受け取ったなどとして、受託収賄容疑で東京地検特捜部が大会組織委員会元理事を 4 回逮捕した。逮捕されたのは、元大手広告代理店の専務で顧問。贈賄側は紳士服大手 AOKI、出版大手 KADOKAWA、広告会社大広、広告大手 ADK ホールディングス、大会マスコットの縫いぐるみを販売したサン・アロー。札幌市と JOC は「札幌五輪 30 年」の招致断念の理由に、東京大会を巡る汚職・談合事件をあげた。

(注 19) オペラとアート・マネジメント(下八川共祐)、カップリング時代の芸術経営学(佐々木)、日本のオーケストラの歴史と現状(草刈津三)、オーケストラの運営(松原千代繁)、コンサートの企画と宣伝・販売(樽松三郎、吉井實行)、オーケストラの構成員(長谷恭男)、音楽事業に関する法律(大家重夫)、オペラの制作(山崎篤典)、コンサート・マネジメントの実情(藪田益資、中根俊士、向坂正久)、日本におけるコンサートホールとその課題(清水裕之)、コンサートホールの運営(杉助浩)、マーケティング(田中珍彦)、公立文化施設における事業展開(井上允)。

【プロフィール】大西洋の領海内操業に伴う折衝(モーリタニア回教共和国駐在)、カメラメーカーの貿易実務(フランス駐在)などを経て研究・教育界へ。(社)企業メセナ協議会幹事、(財)新星日本交響楽団評議員、(財)東京フィルハーモニー交響楽団評議員、春日市文化審議会会長、文化経済学会(日本)理事などを歴任。編著に『アートマネジメントの会計—理論と実務—』(中央経済社)、分担執筆に、池上惇、山田浩之編『文化経済学を学ぶ人のために』(世界思想社)で「メセナの時代—日本の企業メセナ、生成・現状・課題—」、久留米大学経済叢書 12 『東アジアの現状と展望—日中経済国際シンポジウム—』(九州大学出版会)で「文化経済学の展望」ほか。HEC モントリオール(モントリオール高等商科大学院、カナダ)招聘教授。九州共立大学名誉教授。

